

令和6.05A

2024.May

HATSUTA WORK GOODS EG502

【取扱説明書】



 初田拡撒機株式会社

<http://www.hatsuta-ksk.co.jp>

本社 大阪市西淀川区千舟1-5-58

TEL (06) 6472-3857

FAX (06) 6471-6336

東京(営) 埼玉県川口市末広3-5-22

TEL 048-430-7755

FAX 048-430-7737

目次

はじめに	4
安全上の注意	5
まえがき	7
ラベルの説明	8
1 仕様と性能	10
2 各部の名称と働き	11
3 作業する前の安全ポイント	17
4 定期点検	23
4-1 定期点検一覧表 エンジン	23
4-2 定期点検一覧表 油圧・自走部・その他	24
4-3 期間・使用時間による点検整備表	25
4-4 定期点検整備記録簿	26
5 作業手順	30
6 遠心ポンプ使用上の注意点	35
7 作業後のメンテナンス	37
8 速度計	38
9 電気配線図	40
10 油圧回路図	41
11 散布経路図	42
12 散布水量表	43
13 保管	46

はじめに

このたびは、ハツタ スプレーヤーEG502をお買い上げ頂き、有難うございます。この取扱説明書はEG502の持つ性能を十分に発揮して頂きますよう正しい取り扱い方と簡単なお手入れ方法について説明してあります。またコース管理業者として、最低限必要な心構えなどについても記しております。安全で快適な作業を行って頂くために、ご使用前に本取扱説明書と別紙エンジン取扱説明書をよくお読みいただき、正しく機械をお使いください。

この取扱説明書は、いつでも内容が確認できるように大切に保管してください。この取扱説明書では、守って頂きたい安全のポイントをその都度  のマークを表示し説明しております。安全のポイントをよく理解して頂き、事故のない安全な作業をしてください。

注意

安全な散布作業をするため

衣服の一部や頭髮・手ぬぐい等が機械に巻き込まれる事のないように服装を整えてください。運転中の機械はエンジンをはじめ各部が非常に高温になっています。ヤケドをしますので、機械の高温部には触れないでください。機械の回転部は最も危険な箇所です。運転中は触れないでください。また、他の人を近づけないでください。機械の点検・清掃時は必ずエンジンを停止し、回転部が停止して機械の各部が常温になってから行ってください。

次の方は作業に従事しないでください。

1. 酒気をおびた人
2. 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な作業のできない人
3. 妊娠中の人
4. 18才未満の人
5. 負傷中の人、生理中の婦人等農薬による影響を受けやすい人

安全上の注意

警告

安全対策

- ・カバー類は全て正規の位置に取り付けて置く事。
 - ・運転席を離れる前に次の事を必ず行う事。
 1. 平坦な場所を選んで下さい。ゴルフ場内は起伏が多いので急な坂道での駐車は避けてください。
 2. パーキングブレーキを掛ける。または、輪止めをする。
 3. 作業機のエンジンを切る。
 4. 作業機のエンジンキーをはずす。
 - ・機械の修理・調整等をする時は次のことを必ず行う事。

すべての動きが完全に停止してから作業を行う。

 1. 機械の周囲の安全を確認する。
 2. 機械各部の目砂・芝カス・落葉等は必ず清掃する。

特に、エンジンマフラー部は作業中でも点検・清掃する事。
- 本取扱説明書に記載しております定期点検一覧表に基づいて点検整備をお願いします。
- ・始業点検・終業点検は毎日行う事。

-  この取扱説明書をよく読んで機械をよく知る事。取り扱いを誤りますと故障や事故につながります。
-  機械を子供に運転させない事。また大人でも適切な教習をせずに運転をさせない事。必ず自動車運転免許取得者に運転させる事。
-  機械を使用する作業地を事前に十分調べる事。また頭上のスペースや高圧ケーブルに常に注意を払う事。(特に機械の移動時)
-  運転は日中または十分な照明のある時に限定する事。
-  運転をする際には作業部に人を乗せない事。
-  エンジンを始動させる前に必ず全ての駆動装置を切りパーキングブレーキを掛ける事。
-  エンジンは運転席に座った状態で始動し、いかなる時も作業者が乗車せずにエンジンを始動しない事。
-  エンジンを始動する際は油圧操作ペダルが中立位置にある事を確認する事。

- ⚠ 発進する時は急発進せず、前後左右を確認してからゆっくりと発進してください。
- 停止する時は停止位置を想定してスロットルレバーを『低』位置にしてエンジンの回転数を下げてください。絶対に急発進・急停車をしないでください。
- ⚠ 傾斜地では、急発進・急停止しない事。
- ⚠ 傾斜地で旋回する時はスピードを落とし、転倒や制御不能の危険を防止する事。
- ⚠ 傾斜地の駐車は絶対にしないでください。平坦な場所で駐車する事。
- ⚠ 傾斜地での方向転換は、十分注意して行う事。また予測できない危険な場合があるので、常に注意を怠らない事。
- ⚠ 燃料は可燃性が高いので、注意して扱う事。
- 新しいきれいな指定燃料のみ使用する事。
 - エンジンが回転中また熱い間は燃料を補給しない事。
 - 屋内でタンクに燃料を入れない事。こぼれた燃料はきれいに拭き取る事。
 - 燃料を扱っている時は火気厳禁。
 - 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しない事。
 - 燃料を洗浄用には使用しない事。
- ⚠ 燃料をタンクに残したまま機械を保管してはならない。長時間機械を保管する時は燃料タンクから燃料を抜き空にする。屋内場所に機械を保管する時はエンジンが冷めてから保管する事。必ずキーを抜く事。
- ⚠ 格納倉庫でエンジンをかける時は倉庫のドアを開けて換気を良くする事。排気ガスは危険です。ガス中毒になる恐れがあります。
- ⚠ 部品が曲がったまま、あるいは欠品になっている機械を運転してはならない。
- ⚠ 機械及びアタッチメントをいつも使用できる状態に整備しておく。
安全装置は取り外さない事。
- ⚠ 作業機を異物にぶつけた時は、機械を止めて損傷がないか確認する事。損傷があれば修理するまで機械を使わない事。
- ⚠ エンジンガバナーの再調整、また規定のエンジン回転数を超えて運転しない事。
- ⚠ 機械を後退させる時は後に何があるかをまず確認する事。
- ⚠ 機械を公道で走らせない。また運転中は前後左右を確認し周囲に注意する事。
- ⚠ 十分な資格のあるサービスマンに少なくとも年に1回機械を点検させる事。

まえがき

本取扱説明書は、ハツタスプレーヤー EG502の組立・運転・保守・調整・要領を説明しております。本機を運転する前に作業者はこの取扱説明書をよく読み理解してください。指示された運転及び保守要領に従う事によって本機の寿命を延ばし最大限の能力を発揮させる事ができます。

さらに詳細な事項、またはメカニックによるサービスが必要な場合はハツタの販売店に連絡してください。ハツタの販売店は全ての最新のサービス方法に精通しており適切・迅速なサービスを提供するものに必要な設備を完備しています。ハツタ代理店・販売店はハツタのサービスパーツを十分に在庫しており、または工場から迅速に取り寄せる事ができます。ハツタ純正パーツ、またはハツタが特に認定したパーツ以外を使うと保証は無効となります。

※パーツを発注する際はパーツの名称・必要数量に加えて、本体の型式・機体番号を連絡する事。機体番号は本体フレーム前部の銘板に記載してあります。いつでも参照できるようにこの番号を下記に記録しておく事をお勧めします。

型式 EG502 機体番号

取扱説明書に示す図の一部は、わかりやすくする為にカバー・安全ガードをはずした状態で示しております。しかし、いかなる場合もこれらの安全装置を絶対にはずして運転しないでください。必ず安全装置を所定位置に確実に取り付けて運転してください。機械の仕様につきましては、予告なく変更する場合があります。

ラベルの説明

 取扱説明書の『 危険』・『 警告』・『 注意』の表示は次のような安全上及び、取り扱い上重要な事を示しております。

スプレーヤーの安全な作業上、非常に重要ですので、必ず守ってください。

表 示	重 要 度
 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるものを示しております。
 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるものを示しております。
 注 意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。

※EG502のラベルが損傷したら、直ちに取り替える事。

1. 機械に貼ってあるラベルが剥がれや擦れによって読めなくなったら、新しいラベルに貼り替えてください。
2. ラベルが付いている部品を交換するときは、新しいラベルも一緒に交換してください。
3. ラベルは機械のお買上げ先に注文してください。注文の際にはラベルの番号を提示してください。

⚠ 危険

常にすべき事：バッテリーのマイナス側（黒）を真っ先に取り外す。
：バッテリーのマイナス側を最後に接続する。

短絡が下記の原因で起きた場合、バッテリーからのガス、燃料タンクからの気化燃料または、これらの両方が引火し爆発、火災発生の危険がある。

1. 取付金具とターミナルをゆるめるのに使う工具との接触。
2. バッテリーターミナルからのケーブル取り外し順序を誤る。
3. バッテリーターミナルを取付金具にぶつけた（取り付け、取り外しの時）

バッテリーを取り外すには

1. マイナスのターミナル（黒）を最初に外す。
2. プラスのターミナル（赤）を外す。
3. バッテリーを押さえているクランプをゆるめて外す。
4. 慎重にバッテリーを取り外す。

バッテリーを取り付けるには

1. ターミナルをバッテリーケース中央に受けバッテリーを慎重に置く。
2. バッテリー固定用のクランプを締める。
3. プラスのターミナル（赤）を接続する。
4. マイナスのターミナル（黒）を接続する。

KM802027A

⚠ 危険



機械が作動中は、回転駆動部分に絶対に手足を近づけないこと。また、衣服の巻き込みに注意すること。

KM801002A

⚠ 危険



油圧は高温、高圧ですから手を近づけないこと。また、油圧オイルは芝を傷めますから毎日漏れを点検すること。

KM801010A

⚠ 危険



KM801011A

マフラー及びエキゾーストパイプには手を触れないこと。高温になっているため、火傷する場合があります。

⚠ 危険



発火注意

芝カス、落葉が堆積すると（特にエンジン、マフラー部分に）火災が発生することがあります。

KM801013A

⚠ 危険



火気厳禁

KM801012A

⚠ 注意

電磁クラッチをつなぐ時は、回転数の上げすぎに注意すること。必ず1100～1400rpmでスイッチを入れること。回転を上げすぎてクラッチをつなぐと、電磁クラッチを損傷することがあります。

KM801009A

⚠ 注意

安全装置を外したり改造すると、大きなけがの原因となり非常に危険です。スイッチの正しい操作については、マニュアル参照。

KM802023A

⚠ 注意

安全カバーを外して、機械を運転しない事。

KM801031A

⚠ 注意

無鉛ガソリン

KM801005A

指定されたきれいな燃料を使うこと。

⚠ 注意

油圧オイル

KM803042A

モービル DTE 25

⚠ 注意

水をタンク上面に入れた状態で蓋を閉めないこと。蓋が破損する恐れがあります。

KM803040A

⚠ 注意

エアクリーナーは毎日点検清掃すること。

KM801016A

⚠ 注意

エンジンオイル：SAE10W30

エンジンオイルは毎日点検すること。

KM801014A

⚠ 警告

燃料は必ず新しい指定燃料を入れる事。
給油するときは必ずエンジン止め、屋外で給油する事。
燃料は非常に引火しやすいので、給油中は絶対に火気を近づけない事。
給油後は燃料タンクの蓋を必ずしっかりと閉める事。
こぼれた燃料はきれいに拭き取る事。
作業を始める前に燃料が十分入っているか確認する事。

KM802033A

⚠ 警告

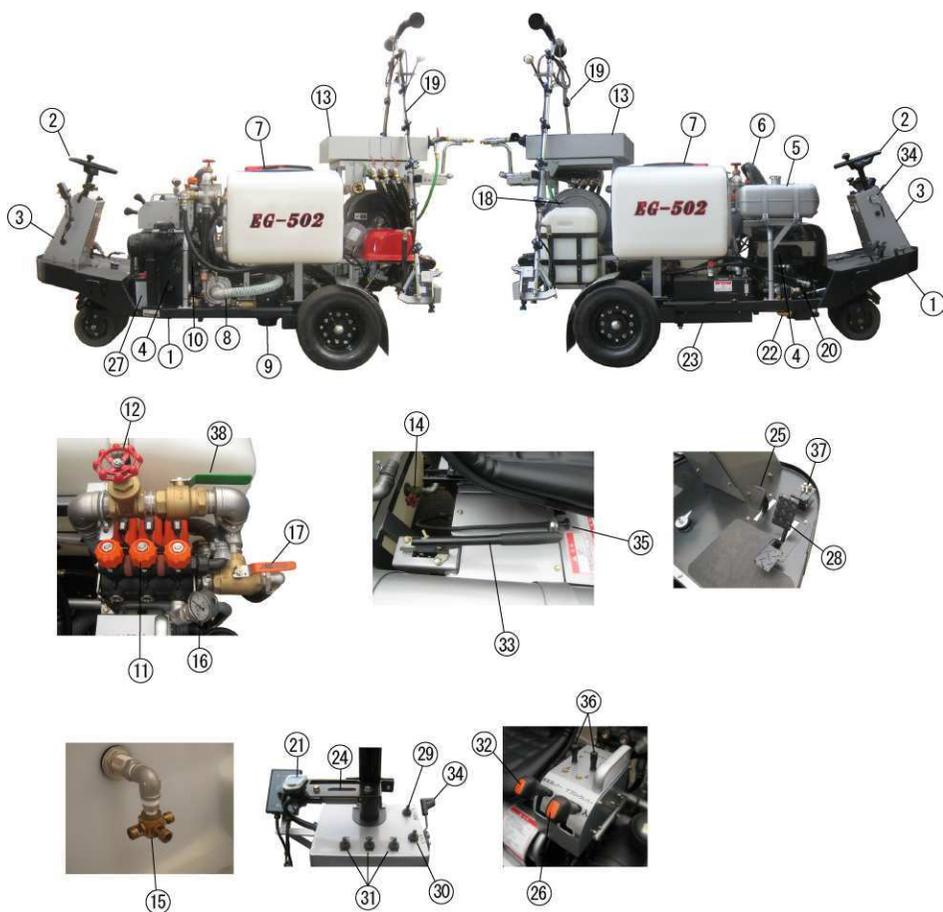
傾斜地あるいは急な旋回時に転倒することがあるので十分注意すること。注意を怠ると大きな損傷を受ける場合があります。

KM801008A

1.仕様と性能

	型式	EG502
機体寸法	全長	2630mm
	全幅	1660mm
	全高	2050mm
	乾燥重量	770kg
	タンク容量	500L
走行部	タイヤサイズ	前輪Φ300×450 ウレタンタイヤ 後輪20-12-10
	ミッション	高速・低速2段切換
	ホイールベース	1610mm
	トレッド	1375mm
	最小回転半径	2530mm
エンジン	メーカー型式	KOHLER CH680-S
	種類	空冷4サイクル OHV ガソリン
	気筒数	2
	総行程容量	674cc
	最大出力	17.2kw (23HP)
	燃料	無鉛ガソリン
	始動方式	セルスターター
油圧装置	ポンプ	KYB PSV-16
	モーター	KYB MSF-23
	高圧リリーフ圧	24.5MPa
	フィルター	スピオンフィルター
	作動油	モービル DTE25
作業部	攪拌方式	水流攪拌
	ブームノズル	18頭口(5.04m 3分割)
	ノズル	ダイヤフラムチェックバルブ付
	吸水量	210L/min
容量	燃料タンク	24L
	エンジンオイル	1.6L(オイルフィルター含む)
	油圧オイル	31L
電気	アース	マイナス(-)
	バッテリー	65B24R 12V

2. 各部の名称と働き



- | | | |
|-----------------|------------------|------------------|
| 1. シャーシ | 14. カクハン用スリースバルブ | 27. バッテリー |
| 2. ハンドル | 15. 水流カクハンノズル | 28. アクセルペダル |
| 3. ハンドルポスト | 16. 圧力計 | 29. ポンプ回転スイッチ |
| 4. エンジン | 17. ブーム・巻取切換コック | 30. メインスイッチ |
| 5. 燃料タンク | 18. 巻取リール | 31. ブームスイッチ |
| 6. 座席 | 19. 三折れブーム | 32. 副変速レバー |
| 7. タンク | 20. 油圧ポンプ | 33. パーキングブレーキレバー |
| 8. 遠心ポンプ | 21. 速度計 | 34. スロットルレバー |
| 9. ストレーナー | 22. 油圧オイルフィルター | 35. チョークレバー |
| 10. 電磁クラッチ | 23. 油圧オイルタンク | 36. ブーム用上下スイッチ |
| 11. 圧力調整バルブ | 24. 回転計 | 37. 速度固定ボルト |
| 12. 水量調整スリースバルブ | 25. ブレーキペダル | 38. 手撒き用ボールコック |
| 13. 薬品箱 | 26. デフロックレバー | |

※写真はオプション（ガラスマーカー）付きです。

1 シャーシ

タンク・エンジン等を取り付けるためのものです。こぼれた薬液等の影響で年数によっては、腐食・損傷する恐れがあります。大きな事故につながる恐れがありますので、定期的に点検・整備をしてください

2.3 ハンドル・ハンドルポスト

ハンドルを右に回すとステアリングギアボックスの作用で前輪が右方向に向きます。また、ステアリングギアボックスを介しているため、軽いハンドル操作が行えます。

4 エンジン

エンジンはKOHLEER社のCH680 17.2kwを採用しています。散布作業は悪い環境下での作業ですので、作業後はコンプレッサー等のエアにてエンジン回りの砂塵等をきれいに吹き飛ばしてください。また、詳細につきましては別冊のエンジン取扱説明書を良くお読みください。

5. 燃料タンク

容量は24Lで無鉛ガソリンを給油してください。給油の際には燃料の可燃性が高いので注意して扱ってください。火気厳禁です。

6. 座席

座席下にスライド調整レバーがありますので最適な位置で運転してください。

7. タンク

薬液を貯蔵するもので、タンク上面で500リットル入ります。また内部には水流カクハン用ノズルが設置されており、薬剤を水流にてカクハンします。

8. 遠心ポンプ

タンク内から薬剤を吸水・吐出し、それぞれのノズルに送ります。

9. ストレーナー

タンク内から薬剤を吸水する際、異物等をポンプが吸い込まないようにポンプ手前で濾過します。

10. 電磁クラッチ

オグラ製TMC-16を採用。ハンドルポストのポンプスイッチによりポンプへの動力を入切します。

11. 圧力調整バルブ

ブーム散布における散布圧力を設定します。それぞれのブームを(左・中・右)個別に、ON・OFFした場合、他のブームの散布水量に影響しないように調整するバルブです。速度変化に対応し散布水量を調整する定量散布装置とは異なります。

12. 水量調整スリースバルブ

ブーム散布における総水量を設定します。バルブを反時計回りにまわすと散布水量が減ります。

13. 薬品箱

薬品や工具などを収納します。

14. カクハン用スリースバルブ

タンク内水流カクハン用の水量調整バルブです。工場出荷時は全開となっており、散布水量に不足がない限り全開にして下さい。バルブを閉じ、水量を下げるとカクハン能率が下がります。

15. 水流カクハンノズル

ポンプから吐出した圧力水流を利用したタンク内のカクハン用ノズルです。エンジンの回転数と水量は連動していますので、遠心ポンプの回転数が低いとカクハン効率が下がります。エンジンが停止した状態、またはポンプスイッチがOFFの状態ではカクハンしませんので注意して下さい。

16. 圧力計

ブーム散布における散布圧力を指針します。※圧力計設置部と先端ノズル部には圧力損失があり、ノズル先端部の圧力とは差異があります。あらかじめ使用するノズルにて圧力損失を確認してください。

17. ブーム・巻取切換コック

ブーム散布と巻取ホースによる手巻き散布の切り替えをします。

18. 巻取リール

ホースを巻き取るもので、Φ13×30mが標準となります。

19. 三折れブーム

三折れ式長管ノズル(6頭口×3)で散布幅は5.04mとなります。

20. 油圧ポンプ

可変式ピストンポンプを採用しています。走行のH S T回路を構成する主の油圧ポンプです。

21. 速度計

本機の走行速度を表示します。

22. 油圧オイルフィルター

濾過精度10 μ のフィルターを採用しています。フィルターの交換は最初の50時間目、以後は一年毎に交換して下さい。いつもきれいな油圧オイルを使用することで、油圧ポンプ・モーター等の性能が久しく発揮できます。

23. 油圧オイルタンク

油圧用のオイルタンクで容量は約31L入ります。オイルはモービルD T E 2 5を使用してください。

24. 回転計

エンジンの回転数を表示します。またエンジン停止した直後には累積時間が表示されます。

25. ブレーキペダル

後輪フットブレーキ用の操作ペダルです。

26. デフロックレバー

走行用デフの差動を固定します。あくまでも後輪の片輪がスリップした際の緊急用です。通常走行時に操作すると本機が旋回不能になります。

27. バッテリー

バッテリーは65B24Rを搭載しています。内部には硫酸が入っており水素と酸素ガスの爆発性混合気を発生します。取り扱いには十分注意してください。

28. アクセルペダル

走行ペダルを前に踏み込むと機体は前進し、後ろに踏み込むと後進します。走行駆動は油圧のH S T回路を採用しておりますので、ペダルを踏むほど速度は速くなります。またペダルを離すことにより機体は停止します。特に起伏の多い場所での急発進・急停止は転倒の恐れがありますので絶対にしないでください。

29. ポンプ回転スイッチ

遠心ポンプ駆動用のスイッチです。電磁クラッチを作動させますので、エンジン回転は必ず低速に入れてください。高速での入切はクラッチ板の焼き付きにつながります。また、必ずタンク内に水がある事を確認してからスイッチを入れて下さい。〈ポンプの空運転禁止〉

30. メインスイッチ

ブームスイッチ(右・中・左)の主のスイッチです。ONにする事で各ブームスイッチが使用できるようになります。ブームスイッチがONまたはOFFの状態(圧力調整バルブが「開」または「閉」)でも、本メインスイッチをOFFにすると圧力調整バルブは全て「閉」になります。

31. ブームスイッチ (右・中・左)

圧力調整バルブの電動モーターを作動します。ONにすることで各バルブモーターが「開」になり、それぞれのブームから散布します。OFFにするとバルブモーターが「閉」になりブーム散布を停止します。

32. 副変速レバー

車速を2段階に切り替えるレバーです。高速側～18km/h、低速側～9km/hとなります。速度の切換は必ず本機が停止した状態で行ってください。

33. パーキングブレーキレバー

走行用ミッションパーキング用ブレーキを作動・解除します。制動用としては使用できません。

34. スロットルレバー

エンジン回転数の調整を行います。手前に引けばエンジン回転数が上がります。

35. チョークレバー

エンジンの混合比を高めるため吸入する空気量を調節します。

36. ブーム上下用スイッチ

三折れブームの左右バーを上下するスイッチです。移動時は左右バーを立てて、しっかり圧力を掛けた状態に収納し走行してください。

37. 速度固定ボルト

ボルトの高さ調整でアクセルペダルを任意の位置でストップできます。

38. 手撒き用ボールコック

手撒き散布用の流量調整コックです。手撒き散布時に圧力を確保する為、ボールコックを閉じて下さい。または調整してください。ブーム散布時の場合は常時開放してください。

3. 作業する前の安全ポイント

スプレーヤーを初めて運転するときは、スプレーヤーの構造・機能を十分理解し、機械の正しい操作方法を完全に習熟してから運転する事。

※作業者は、本取扱説明書全体を注意して読み理解する事。

◎始業点検

何事も最初が大切です。毎日の運転において故障を未然に防ぐためには、本機の状態をいつも知っておく必要があります。その為には毎日一回運転を開始する前に作業者自身での点検（始業点検）が必要です。

注意

（始業点検を始める前には、必ず次の事を守ってください。）

- ・本機は水平な場所にあり、周囲が危険な場所でない事を確認してください。
- ・本機が確実に駐車した状態である事。
場合によっては、車止め等にて固定する事。
- ・キースイッチが“OFF”になっている事。

1. エンジンオイル

- ・毎日オイルの量、状態を確認する。不足の場合は補充してください。
- ・初回は8時間にて交換し、二回目に50時間、その後は100時間毎に交換する事。
- ・オイルフィルターは、初回50時間にて交換をし、その後は200時間毎に交換する事。
- ・オイルは必ず指定のエンジンオイルを使用する事。

※エンジンオイルに関することはエンジンの取扱説明書も参照してください。

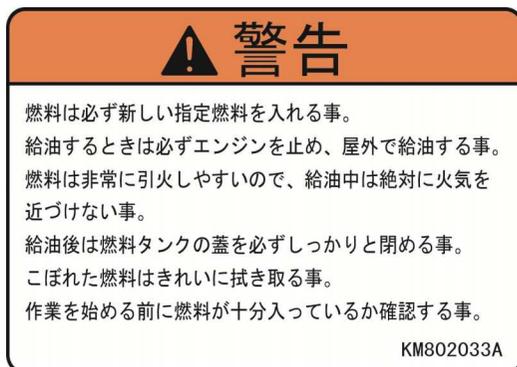


2. タイヤ

前輪はウレタン製タイヤ、後輪は空気入りゴムタイヤです。タイヤに亀裂・損傷・摩耗がないか細かく確認し、ホイールナットは使用後20時間毎にチェックして増し締めを行ってください。

3. 燃料

燃料はきれいで新しい無鉛ガソリンをお使いください。
燃料補給の際は火気厳禁でタンクへの補給の際、入れ過ぎない事。



4. エアクリーナ

ウレタンフィルターは運転前に防塵等の清掃して下さい。また25時間毎に下記の要領でメンテナンスを行ってください。

※フィルターに関することはエンジンの取扱説明書も参照してください。



5. バッテリー

バッテリーメーカーの取扱説明書を全部読んで十分理解してから、点検保守を行ってください。バッテリーの保守作業はエンジンを停止し、イグニッションキーを外してから行ってください。搭載バッテリーの仕様は65R24Rです。

バッテリーの保守点検

1. バッテリーの脱着時はプラス及びマイナスの端子が機械の金属パーツと同時に接触することがないように注意してください。同時接触するとショートして大きな損傷を引き起こします。バッテリーの保守点検作業を行うときは必ず“アースケーブル(-)”を最初に外し、取り付ける際は最後に接続してください。
2. バッテリーの接続端子部は常にきれいに保ち、確実に締めておきます。ケーブルが緩んでいると、何れはバッテリーの不具合を引き起こします。端子のカバーは正しい位置に付けておきます。
3. 必要に応じてバッテリーを石けんと水で清掃します。但し、バッテリーの中に石けんや水が入らないように注意してください。
4. スチールウールを使ってターミナル接続部の表面を磨きます。
5. ターミナルとケーブルの端に腐食を防ぐためにシリコン誘電グリースを薄く塗り

ます。

6. バッテリーターミナルにケーブルをしっかり繋ぎ、固定します。
7. バッテリーの電解溶液量が不足している場合、UPPERラインまで精製水を補充します。

6. 油圧装置

A. ピストンポンプ

中立だし

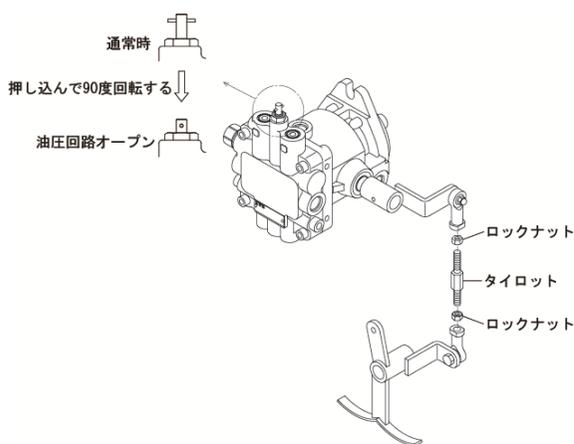
前進・後進の中立が出ているか確認します。

1. 本機をジャッキアップして安定の良い台に乗せ、後輪の片側を浮かせます。
2. 副変速レバーを「高速」にします。
3. パーキングブレーキレバーを解除します。
4. エンジンを始動し、スロットルレバーにてエンジン回転数を若干上げます。
5. この状態で車輪が回転する場合は、次のポンプ中立調整をしてください。
6. ポンプ横にあるタイロットのロックナットを緩め、車輪の回転が止まるまで長さを調整し、再度ロックナットで確実に固定してください。

故障時の車輛移動

万一走行出来なくなった場合の移動・牽引方法は、油圧ポンプ上面のアンロードバルブにて油圧閉回路をオープンにし、副変速レバーを「高速」と「低速」の中間位置にし、ミッションをニュートラルにします。

※油圧およびミッションをニュートラルにしますので、必ず乗車し、ハンドル、ブレーキの操作ができる状態にした上で、平坦地の移動に限定してください。



B. オイルタンク

容量は約 3 1 L です。油圧オイルはモービル D T E 2 5 相当品をお使いください。油圧オイルの量は不足していないかゲージにて確認して下さい。またオイルが乳化、及び透明度が少しでも悪くなったらすぐに交換してください。

C. 油圧オイルフィルター

ピストンポンプは精度が高く、コンタミネーション(スラッジ、鉄粉、さび、やすり粉、その他の粉塵)には特に敏感です。その為には適したフィルターを設置してコンタミネーションを除去する必要があります。

油圧オイルフィルターは 1 0 μ のものを使用しております。フィルターの交換は最初の 1 0 0 時間目、以降は 1 2 ヶ月毎に交換してください。いつもきれいな油圧オイルを使用することで、ピストンポンプの性能が久しく発揮できます。

D. 油圧ホース

油圧ホースには高圧(2 4 . 5 M P a) が掛かる物もありますので、ホースに外傷が無いか、また接続部に油漏れが生じていないか確認する事。油圧オイルは芝生にダメージを与えますので、こぼれた場合はきれいに拭き取り落とさないようにする事。ホースの傷から油圧オイルが噴出した場合、高温、高圧で危険ですから手を近づけないで下さい。直ちにエンジンを止めて修理してください。



油圧オイルの注意事項

- ⚠ 目に入ると炎症を起こす恐れがあります。取り扱う際は保護眼鏡を使用する等、目に入らないようにしてください。
- ⚠ 皮膚に触れると炎症を起こす恐れがあります。取り扱う際は保護手袋を使用する等、皮膚に触れないようにしてください。
- ⚠ 飲まないでください。(飲み込むと下痢、嘔吐します。)

応急処置

- ・目に入った場合は、清浄な水で15分間洗浄し、医師の診断を受けてください。
- ・皮膚に触れた場合は水と石けんで十分に洗ってください。
- ・飲み込んだ場合は無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けてください。

廃油・廃容器の処置

- ・処理方法は法令で義務づけられています。法令に従って適正に処理してください。
- ・海・河川・湖、その他付近及び排水溝に廃棄しないでください。
火災の危険があるだけでなく、環境汚染につながります。
- ・不明な場合は、オイル購入先にご相談の上処理してください。

7. Vベルト

遠心ポンプ駆動用のVベルトが緩んでいないか確認します。ベルトが緩いとスリップし圧力・水量が上がりにくいため、遠心ポンプを固定しているボルトを緩めスライドさせてベルトを張ってください。また損傷していたら交換してください。

8. ストレーナー

ストレーナーのフタを外し、中の濾しアミが目詰まりがないか確認してください。目詰まりしますと水の吸い込み不足や、キャビテーション(空気の混入)を起こす原因となります。目詰まりしている場合は、清水にて洗浄してください。また汚れ・詰まりがひどい場合は交換してください。

9. スプレーホース・接続部

それぞれのスプレーホースに亀裂等ないか確認してください。また接続配管に緩みがないか確認してください。

10. スプレーチップ

スプレーチップの吐出量を定期的に測定し確認してください。使用頻度に応じてチップ径が広がり散布量が変わってきます。

1 1. 水流カクハンノズル

タンク内カクハンノズルの目詰まりを確認してください。ノズルに異物等の目詰まりがあるとカクハンできませんので、常に水流が吐出しているか確認してください。

1 2. その他

起伏の多い場所を作業しますので、各部の安全カバー・装置に緩みがないか確認してください。また各ボルト・ナットの増し締め、グリースアップ等の整備をしてください。また、前回の運転中に異常を確認した箇所や、始業点検にて異常を発見した場合は再調整または修理をし、常に機械を完全な状態に保つように心がけてください。

4. 定期点検

4-1 定期点検一覧表(エンジン)

	定期点検項目	始業点検	50h	3ヶ	6ヶ	12ヶ	24ヶ	備考
				月 又は 100h	月 又は 200h			
エ ン ジ ン	掛かり具合及び異音	○						
	低速及び加速の状態	○						
	排気の状態	○						
	オイルの漏れ	○						
	オイルの汚れ	○						
	オイルの量	○						
	オイルの交換		○	○				初回は 8h
	オイルエレメントの交換				○			初回は 50h
	燃料の漏れ	○						
	燃料フィルターの詰まり			○				
	燃料フィルターの交換						○	
	燃料の量	○						
	燃料ホースの交換							○
	燃料沈殿物の除去							○
	燃料ホース締付バンド点検						○	
	エアクリーナーエレメントの清掃	○						
	エアクリーナーエレメントの交換						○	
	バッテリー液点検	○			○			
バッテリー交換				○			○	
電気配線点検								
マウントボルト緩み								

4-2 定期点検一覧表 油圧・走行部・その他

	定期点検項目	始業点検	1ヶ	3ヶ	6ヶ	12ヶ	24ヶ	備考
			月 又は 50h	月 又は 100h	月 又は 200h			
油 圧 装 置	オイルの漏れ	○						
	オイルの汚れ	○						
	オイルの量	○						
	オイルの交換					○		初回は 100h
	フィルターの交換					○		初回は 100h
	油圧ホースの点検	○						
走 行 部	前後輪タイヤの摩耗・損傷	○						
	走行ペダルの点検	○						
	舵取り装置の点検	○						
そ の 他	ストレーナー濾しアミの洗浄	○						
	各部配管の緩み・水漏れ	○						
	Vベルトの緩み・損傷	○						
	水流カクハンノズルの目詰まり	○						
	液量ホースの汚れ	○						
	スプレーチップの摩耗	○						
	スプレーチップの損傷	○						
	各部のネジの緩み	○						
	各部の給油箇所	○						



注 意

走行条件が一般走行と違いますので、上記に記載しております一覧表に基づいて点検整備を行ってください。

4-3 期間・使用時間による点検整備表

整備完了後、実施年月日・実施時の積算時間を記載し「○」または「レ」印を記入してください。使用時間と期間後との交換を推奨していますので、そのどちらか早いほうで交換してください。

点検・交換項目 及び点検推奨時間	実施年月日	/	/	/	/
	実施時の積算時間	h	h	h	h
エンジンオイル交換	最初は 8h				
	2 回目 50h				
	3 回目以降 100h				
オイルエレメント交換	200h 又は 6 ヶ月				
エアクリーナーエレメント交換	100h 又は 12 ヶ月				
燃料フィルター交換	800h 又は 24 ヶ月				
燃料ホース交換	800h 又は 24 ヶ月				
油圧オイル交換	500h 又は 12 ヶ月				
油圧フィルター交換	500h 又は 12 ヶ月				
油圧ホース交換	800h 又は 24 ヶ月				

点検・交換項目 及び点検推奨時間	実施年月日	/	/	/	/
	実施時の積算時間	h	h	h	h
エンジンオイル交換	最初は 8h				
	2 回目 50h				
	3 回目以降 100h				
オイルエレメント交換	200h 又は 6 ヶ月				
エアクリーナーエレメント交換	100h 又は 12 ヶ月				
燃料フィルター交換	800h 又は 24 ヶ月				
燃料ホース交換	800h 又は 24 ヶ月				
油圧オイル交換	500h 又は 12 ヶ月				
油圧フィルター交換	500h 又は 12 ヶ月				
油圧ホース交換	800h 又は 24 ヶ月				

4-4 定期点検整備記録簿

1. □ヶ月点検整備
実施する定期点検整備の点検時期を「○」で囲みます。
2. 機体番号
機体に貼付してあります機体番号マークをみて記入してください
3. 点検結果及び整備の概要
 - 1) 点検の結果異常がなかった場合には、その点検項目のチェック欄(□)に「レ」を記入します。
 - 2) 点検の結果異常があり、必要な整備を行った場合には、下記表の整備作業区分による「チェック記号」を用いてチェック欄に記入します。整備作業が重複して行われた場合には、表中の記載順位が最も高い物を記載します。
 - 3) 点検又は整備が分解を伴って行われたときは、「チェック記号」を○で囲みます。
4. 点検又は整備を実施した者の氏名
点検又は整備を実施した者の氏名を記入します。また、点検と整備を実施した者が異なる場合は、両者を記入します。
5. 点検の年月日・整備を完了した年月日
点検の年月日・整備を実施した年月日をそれぞれ記入します。
6. 記事(主な交換部品・測定結果等)
整備の際に交換した主な部品や、測定結果などを必要に応じて記入します。

チェック記号の記入順位

順位	作業区分	チェック記号	意味
	点検	レ	点検結果、異常が無かった
1	交換	×	点検結果、交換した(部品・油脂)
2	修理	△	点検結果、修理した(摩耗・損傷)
3	調整	A	点検結果、調整した(機能維持のため)
4	締付	T	点検結果、締付した(緩んだ箇所の増し締め)
5	清掃	C	点検結果、清掃した(粉塵・油等)
6	給油	L	点検結果、給油した(油脂・液類を補給)

定期点検整備記録簿

点検	レ	交換	×	締付	T
		修理	△	清掃	C
分解	○	調整	A	給油	L

型式：

機体番号：

1, 3, 6, 12ヶ月定期点検整備

点検の結果及び整備の概要

原動機

- 原動機のかかり具合・異音
- 低速及び加速の状態
- 排気の状態
- エアエレメントの汚れ
- 燃料漏れ
- 燃料フィルターの詰まり
- アクセルチョークの状態
- エンジンオイルの漏れ、汚れ、量

走行・制動装置

- 走行ペダルの遊び
- 走行ペダルの中立
- タイヤの摩耗・亀裂・損傷
- ホイルナットの緩み

電気装置

- 点火プラグの状態
- 点火時期
- トランジスタマグネットの状態
- バッテリーの比重・液量
- 電気配線の接続部の緩み・損傷

動力伝達装置

- Vベルトののび・損傷
- Vプーリの摩耗・損傷
- 軸受けベアリングの摩耗・損傷
- 電磁クラッチの摩耗

遠心ポンプ

- 水漏れ
- 異音

油圧装置

- 油圧ポンプの油漏れ
- 油圧モーターの油漏れ
- 油圧ホースの油漏れ・損傷
- 油圧オイルの汚れ・量
- 各配管の油漏れ

タンク・配管

- 水漏れ
- 吸水ストレーナー網の汚れ・損傷
- 各部の緩み・ガタ
- 液量ホースの汚れ

その他

- 各接続ホースの損傷
- 各部の給油脂状態
- 締め付け部の緩み
- 他

記事

点検又は整備を実施した者の氏名	点検の年月日	整備を完了した年月日	点検時の積算時間
	年 月 日	年 月 日	(h)

定期点検整備記録簿

点検	レ	交換	×	締付	T
		修理	△	清掃	C
分解	○	調整	A	給油	L

型式： _____

機体番号： _____

1, 3, 6, 12ヶ月定期点検整備

点検の結果及び整備の概要

原動機

- 原動機のかかり具合・異音
- 低速及び加速の状態
- 排気の状態
- エアエレメントの汚れ
- 燃料漏れ
- 燃料フィルターの詰まり
- アクセルチョークの状態
- エンジンオイルの漏れ、汚れ、量

走行・制動装置

- 走行ペダルの遊び
- 走行ペダルの中立
- タイヤの摩耗・亀裂・損傷
- ホイルナットの緩み

電気装置

- 点火プラグの状態
- 点火時期
- トランジスタマグネットの状態
- バッテリーの比重・液量
- 電気配線の接続部の緩み・損傷

動力伝達装置

- Vベルトののび・損傷
- Vプーリの摩耗・損傷
- 軸受けベアリングの摩耗・損傷
- 電磁クラッチの摩耗

遠心ポンプ

- 水漏れ
- 異音

油圧装置

- 油圧ポンプの油漏れ
- 油圧モーターの油漏れ
- 油圧ホースの油漏れ・損傷
- 油圧オイルの汚れ・量
- 各配管の油漏れ

タンク・配管

- 水漏れ
- 吸水ストレーナー網の汚れ・損傷
- 各部の緩み・ガタ
- 液量ホースの汚れ

その他

- 各接続ホースの損傷
- 各部の給油脂状態
- 締め付け部の緩み
- 他

記事

点検又は整備を実施した者の氏名	点検の年月日	整備を完了した年月日	点検時の積算時間
	年 月 日	年 月 日	(h)

定期点検整備記録簿

点検	レ	交換	×	締付	T
		修理	△	清掃	C
分解	○	調整	A	給油	L

型式：

機体番号：

1, 3, 6, 12ヶ月定期点検整備

点検の結果及び整備の概要

原動機

- 原動機のかかり具合・異音
- 低速及び加速の状態
- 排気の状態
- エアエレメントの汚れ
- 燃料漏れ
- 燃料フィルターの詰まり
- アクセルチョークの状態
- エンジンオイルの漏れ、汚れ、量

走行・制動装置

- 走行ペダルの遊び
- 走行ペダルの中立
- タイヤの摩耗・亀裂・損傷
- ホイルナットの緩み

電気装置

- 点火プラグの状態
- 点火時期
- トランジスタマグネットの状態
- バッテリーの比重・液量
- 電気配線の接続部の緩み・損傷

動力伝達装置

- Vベルトののび・損傷
- Vプーリの摩耗・損傷
- 軸受けベアリングの摩耗・損傷
- 電磁クラッチの摩耗

遠心ポンプ

- 水漏れ
- 異音

油圧装置

- 油圧ポンプの油漏れ
- 油圧モーターの油漏れ
- 油圧ホースの油漏れ・損傷
- 油圧オイルの汚れ・量
- 各配管の油漏れ

タンク・配管

- 水漏れ
- 吸水ストレーナー網の汚れ・損傷
- 各部の緩み・ガタ
- 液量ホースの汚れ

その他

- 各接続ホースの損傷
- 各部の給油脂状態
- 締め付け部の緩み
- 他

記事

点検又は整備を実施した者の氏名	点検の年月日	整備を完了した年月日	点検時の積算時間
	年 月 日	年 月 日	(h)

5. 作業手順

1 エンジン始動

- 1) パーキングブレーキレバーを引きパーキングブレーキを掛けます。
- 2) 走行ペダルが中立位置にあることを確認します。
- 3) ポンプスイッチを「OFF」にします。
- 4) メインスイッチを「OFF」にします。
- 5) ブームスイッチ全てを「OFF」にします。
- 6) イグニッションキーを差し込み、燃料コックを「開」にします。
- 7) スロットルレバーを少し「高速」位置へ引きます。
- 8) チョークレバーを「閉」位置にします。
- 9) イグニッションキーを「スタート」位置に回動するとセルモーターが作動し、エンジンが始動します。始動したらキーから手を離す。(キーは「ON」の位置になります)

※セルモーターを長時間連続で回すと破損する恐れがあります。エンジンが始動しない場合は一旦キーを「OFF」に戻して、しばらくしてから再度エンジンを始動させて下さい。セルモーターの保護、またバッテリー上がりを防ぐため5秒以上セルモーターを連続で回さないで下さい。

- 10) エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「開」位置へ戻してください。
- 11) エンジン始動後はしばらく暖機運転を行ってください。

※暖機運転は冬季に限らず必ず行う事。格納庫等の周囲が囲まれた換気が悪い場所では、エンジンを稼働させたままにしない事。排気ガスで空気が汚れ、ガス中毒を起す危険があります。

2 走行

- 1) エンジンが始動してください。
- 2) 低速/高速切換スイッチにて速度を切り替えてください。エンジン回転数が3000RPMの時、低速0～9 km/h、高速0～18 km/hとなります。

※スイッチ切換は必ず本機が停止した状態で行ってください。

- 3) 走行ペダルを徐々に踏み込み移動します。

※急発進・急停止は危険です。また3輪タイプですので傾斜地での旋回は十分注意してください。

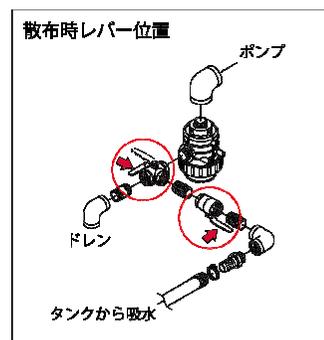
- 4) 本機を停止する際は、走行ペダルを徐々に中立に戻してください。

3 ブーム散布の準備

散布時レバー位置確認

中間ストレーナー部のコックレバー位置を右図イラストのようにします。

※コックレバー位置を誤ると空運転となりポンプの損傷に繋がります。



散布水量と速度の確認

使用薬剤説明書を確認の上、 1 m^2 あたりの散布水量を決定してください。

EG-502水量表をもとに散布速度・使用チップサイズ・圧力を決めます。

※散布速度は均一散布を行うために散布エリアを充分考慮し、安全で一定の速度を保てる速度を選択する事。

例： 1 m^2 当たり200cc散布の場合

散布速度・散布圧力・ノズルチップで決定します。

例えば、作業の散布速度を 5 km/h とし、ノズルチップは8015#とした場合、水量表より散布速度 5 km/h で8015#の表から圧力 0.3 MPa の時は、 207.2 cc/m^2 散布ができます。

従って作業速度 5 km/h にてチップが8015#の場合、圧力は 0.3 MPa が目安となります。

速度固定ボルトによる走行速度の設定

1. イグニッションキーにてエンジンを始動してください。
2. 走行しながらの調整を行いますので、平坦で周りに障害物がない場所に移動します。
3. 速度固定ボルトを起こし、固定ボルトのナットを緩めてください。
4. 副変速レバーを「低速」にします。
5. エンジン回転を 3000 RPM にします。
6. 走行ペダルを徐々に踏み込み前進してください。
7. 速度計にて走行速度を確認しボルトの長さを調節してください。

圧力調整バルブによる散布圧力の設定

1. 決定したチップを各ブームに装着します。
2. ブーム・巻取切替レバーを「ブーム」側に切り替えます。
3. 水量調整スリースバルブを全開にします。

3. 水量調整スリースバルブを全開にします。
4. 圧力調整バルブのそれぞれのダイヤルツマミを全閉にします。(時計回り)
5. エンジンを始動し低速回転でポンプスイッチを入れた後、3000RPMまでエンジン回転数を上げてください。
6. ブームレバーにて左右のブームを水平になるように降ろしてください。
7. メインスイッチを「ON」にし、各ブームスイッチも全て「ON」にして散布します。
8. 水量調整スリースバルブを調整し、選定した圧力になるようにします。
9. 圧力調整バルブにて右・中・左それぞれの圧力を調整します。
10. まずブームスイッチ [左] を「OFF」にします。
11. 「OFF」にすると管路圧力が上がるので、圧力調整バルブにて [左] のダイヤルツマミを反時計回りに開けていき設定圧力に調整します。
12. 調整が終わったら、再度ブームスイッチ [左] を「ON」にし散布します。
13. 以降ブーム中・右と1本ずつ順番に(手順10～12)設定します。
14. これでブームの散布本数に関係なく圧力は一定となります。

※圧力調整バルブは各ブーム(左・中・右)を個別にON・OFFした場合、他のブームの散布水量に影響しないように調整するバルブです。速度変化に対応し散布水量を調整する定量散布装置とは異なります。

※水流カクハン調整バルブは触らない事。上記の調整が行えないときは購入販売店にご相談下さい。

4 ブーム散布手順

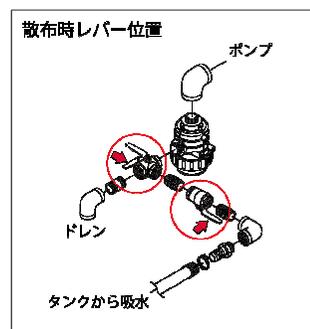
- 1) 中間ストレーナー部のコックレバー位置を右図イラストのようにします。

※コックレバー位置を誤ると空運転となりポンプの損傷に繋がります。

- 2) タンクに水を入れます。
- 3) イグニッションキーにてエンジンを始動します。
(1 エンジン始動参照)
- 4) エンジン回転が低速回転の状態ですポンプスイッチを「ON」にします。

その後3000RPMに回転を上げてください。

- 5) タンク蓋を開け薬剤を入れてください。(溶けにくい薬剤は少量ずつ入れ、時間をかけてカクハンして下さい。)



※カクハン装置は水流カクハンのみで行っていますので、エンジン停止時、またポンプスイッチがOFFの状態では作動しません。またエンジン回転数を上げないとカクハン効率が極端に悪くなりますので、注意してください。

- 5) 副変速レバーを「低速」にし、目的の速度固定ボルトをセットします。
- 6) ブーム上下レバーにてブーム左右を水平位置まで下げます。
- 7) ブームスイッチ(右・中・左)を「ON」にします。
- 8) パーキングブレーキレバーを解除し散布エリアに移動します。
- 9) 散布エリアでメインスイッチを「ON」にして散布作業を開始します。

※ブームスイッチ・メインスイッチは、多少のタイムラグがありますのでご注意ください。

※散布終了・停止時はブームスイッチを「OFF」にして、完全に水が止まったことを確認してからメインスイッチを「OFF」にしてください。

5 手撒き散布手順

- 1) 中間ストレーナー部のコックレバー位置を右図イラストのようにします

※コックレバー位置を誤ると空運転となりポンプの損傷に繋がります。

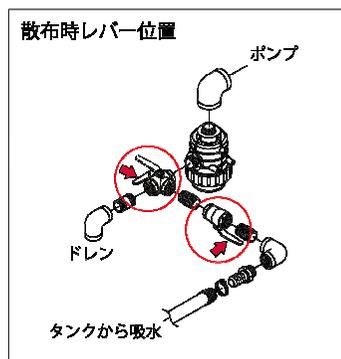
- 2) タンクに水を入れます
- 3) イグニッションキーにてエンジンを始動します。
(1 エンジン始動参照)
- 4) エンジン回転が低速回転の状態ですべてのポンプスイッチを「ON」にします。

その後3000RPMに回転数を上げてください。

- 5) タンク蓋を開け薬剤を入れてください。(溶けにくい薬剤は少量ずつ入れ、時間をかけてカクハンして下さい。)

※カクハン装置は水流カクハンのみで行っていますので、エンジン停止時、またポンプスイッチがOFFの状態では作動しません。またエンジン回転数を上げないとカクハン効率が極端に悪くなりますので、注意してください。

- 6) 散布エリア付近の地盤の安定した箇所へ本機を移動し、パーキングレバー引きパーキングブレーキをかけてください。
- 7) メインスイッチ、及びブームスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。
- 8) ホース先端のノズルロックが閉じていることを確認してください。
- 9) ブーム・巻取切換コックを手撒きへ切り替えます。
- 10) スロットルレバーにて、エンジン回転数を低速に戻します。



- 11) ポンプスイッチを「ON」にします。
- 12) ホースリールよりホースを引き出し、先端コックを開けて散布を開始してください。

※ご使用のノズル毎に散布水量・散布圧力は違います。エンジン回転数と水量調整スリースバルブ，手撒き用ボールコックにて、適正な散布圧力と水量に調整してください。

6. 遠心ポンプ使用上の注意点

必ずタンク内に水がある事を確認してから、エンジン低速時にポンプ回転スイッチを入れて下さい。〈ポンプ空運転禁止〉

薬剤・液肥など、ご使用されるものは特に規制していませんが、薬剤・液肥などの形態によっては、ポンプ内部部品（ポンプ・圧力調整バルブなど）の消耗に大きく影響するものがあります。一部を除き液体系のものについては問題ありませんが、水和剤系（水に溶けずに混ざるだけのもの）については、消耗を促進させます。

ポンプのメカニカルシールにおいては、摩耗が早く、使い方によっては早い時間に水漏れを起こす事もあります。特にそれらの薬剤・液肥を一気にタンクに注入致しますと、数回の散布でも水漏れが発生する事もありますのでご注意下さい。

また、圧力調整バルブ等の部品においても同様で、摩耗が原因で水漏れ・圧力低下・吐出量の低下が起こります。このような消耗におきましては、クレーム対象外になりますので、十分注意の上ご使用下さい。



ポンプ空運転によるインペラとメカニカルシールキット破損

注意点

- 1) 水和剤または水に溶けない肥料等を使用する場合は、少量ずつ投入して下さい。
特に溶けにくいものは、あらかじめバケツ等の容器で良く混ぜてから、少量ずつ投入して下さい。過度なタンクミックスは避けて下さい。
- 2) 鉄材においては、粗いものは避け、極力細かい粉末のものを使用して下さい。
鉄材は特にポンプ消耗を促進する為、出来れば液体のものをお勧めいたします。
- 3) 散水栓等から水を入れる際、砂等の異物がタンクに入らないよう注意して下さい。
また、極力きれいな水を使用して下さい。
- 4) 使用後は、必ずポンプ・配管内等きれいに水で洗い流して下さい。洗浄はタンクから配管に至るまで、きれいな水を通し、ノズルからきれいな水が出るまで行って下さい。
着色剤・展着剤・浸透剤等は、使用後洗浄しないと固着し、オイルシールを硬化させ水漏れの原因になります。ひどい場合はポンプ内部が固着して、ポンプが回らなく

なる事もあります。

- 5) 着色剤はシールに浸透しやすく、劣化が著しく早い場合もあります。
- 6) ストレーナー・ノズルチップに詰まるようなものについては、使用しないで下さい。

7. 作業後のメンテナンス

- 散布作業後は、タンクにきれいな水を注入して、スプレーホース・ブーム散布を行い、タンク内・作業機配管内・中間ストレーナー等をきれいに清掃して下さい。特に着色剤など点滴剤が含まれているもの(任意に点滴剤を入れた場合においても同様)、念入りに清掃を行ってください。そのまま放置すると点滴剤が固まり、ローター軸のオイルシールが破損し、水漏れの原因になります。または、ポンプ内の部品が固着し故障の原因になります。
これらの故障においては、クレーム対象外になりますので十分注意してください。
- 使用薬剤・液肥については特に規制はありませんが、鉄剤・銅剤・水和剤など粒形が荒く、水に解けないものにおいては、著しくポンプが消耗します。できる限りこれらのものを使用しないようにしてください。
使用せざるを得ない場合は、ポンプ交換の頻度が極端に早くなる事をご理解ください。ポンプの消耗においてはクレーム対象外になります。
- 冬期凍結の予防の為、全ての配管内の水を抜いて下さい。
 - 中間ストレーナー蓋を外して下さい。
 - 各ホースのホース金具を緩めて外して下さい。
 - 特にブーム噴管内はチェックバルブ付ノズルのため、水が抜けません。ノズルボディーから外し水が完全に抜けた事を確認してください。
 - 凍結が原因での部品破損においてはクレーム対象外になります。
- 本製品の外面の汚れを、丁寧に拭きとって下さい。薬液等が付着したままになっていると腐食の原因になります。
- 次の作業に備え、不足部品が生じていないか？消耗した部品はないか？よく調べて下さい。特にノズルの穴の状態は、必ず点検して下さい。

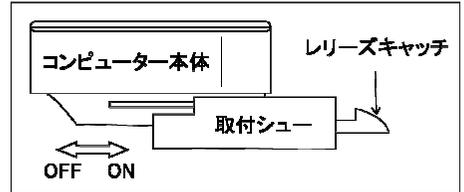
8. 速度計

速度計の調整方法 (型式 HA548B)

製品の速度計は前輪タイヤの回転数を速度センサーにて検出して走行速度を表示しています。コンピューター本体を、取付シュー「ON」位置方向にカチッとなるまで差し込みます。

正しく取り付けられていない場合、使用時に紛失しますので注意して下さい

コンピューター本体を外すには、レリーズキャッチを下方方向に押し込みながら、コンピューター本体を「OFF」方向に引き出して取り外します。



◆ホイールサイズ入力 EG502 の場合 915mm



最初に、左右のボタンを同時に3秒間長押しして下さい。

「2060」と表示され一番右側「一桁目」の「0」が点滅します。

右ボタンを押すことによって数字が上がっていきます。左ボタンを押すと左側「二桁目」に移行します。この操作を繰り返し「915」と入力します。

左ボタンを押すと「KM (キロメートル)」もしくは「M (マイル)」が表示されますので、右ボタンで「KM (キロメートル)」を選択します。

左ボタンを押すと、200、400、600、800と表示されますので、右ボタンを押して下さい。400を入力して左ボタンで決定して下さい。

この数値は走行距離で、工場出荷時は400を選択しています。

400KMを選択していると、400KM走行するとメンテナンスアラート「7」が表示されます。

メンテナンスアラートを非表示にするには、右ボタンを3秒押ししてリセットして下さい。

工場出荷時は、オイル交換推奨時期 (HWS-2 は除く) として 400KM で設定していますが、お好みの数値を入力しても問題ございません。



◆時間設定

右ボタンを数回押してクロックモード（右図の赤枠部 無表示）時にします。左ボタンを3秒間押して、「12Hr」「24Hr」の選択に入ります。

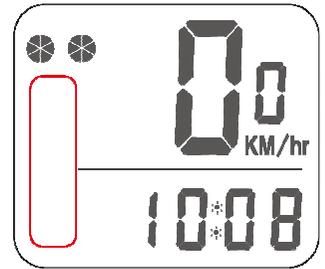
左ボタンを押すと、「12Hr」「24Hr」と切り替わり、右ボタンで決定して下さい。

工場出荷時は24Hrを選択しています。

時間を示す数字が点滅し始めたら、左ボタンを押して「時間」を入力します。

右ボタンを押して「分」を示す数字が点滅し始めたら、左ボタンを押して「分」を入力し右ボタンを押して下さい。

再び右ボタンを押してODOモードに切り替えて終了です。



◆故障かな?と思ったら

表示される数値がおかしい場合は電池を抜いて10秒後にもう一度電池を入れて下さい。

表示が薄くなってきたら新しい電池「AG13 or LR44」に交換して下さい。

特に夏の直射日光により高温になった場合、何も表示されない黒い画面になることがあります。その際はクールダウンさせてください。

◆再設定

誤作動した場合等、定期的にタイヤ周長「実測回転数値」を設定入力して下さい。

◆機能

SPD：現在の速度 ODO：オドメーター(0.001-99999km1m) DST：走行距離 MXS：最大速度

AVS：平均速度 TM：経過時間 CLK：時計(12H/24H) SCAN：スキャン

”-””+”コンパレータ

SETTING SPEED SCALE 速度スケールの設定 (km/h, m/h)

SETTING TIRE CIRCUMFERENCE タイヤ円周の設定 (0mm~9999mm)

SETTIN THE LAST VALUE OF ODOMETER/ODOMAINTENANCE ALERT

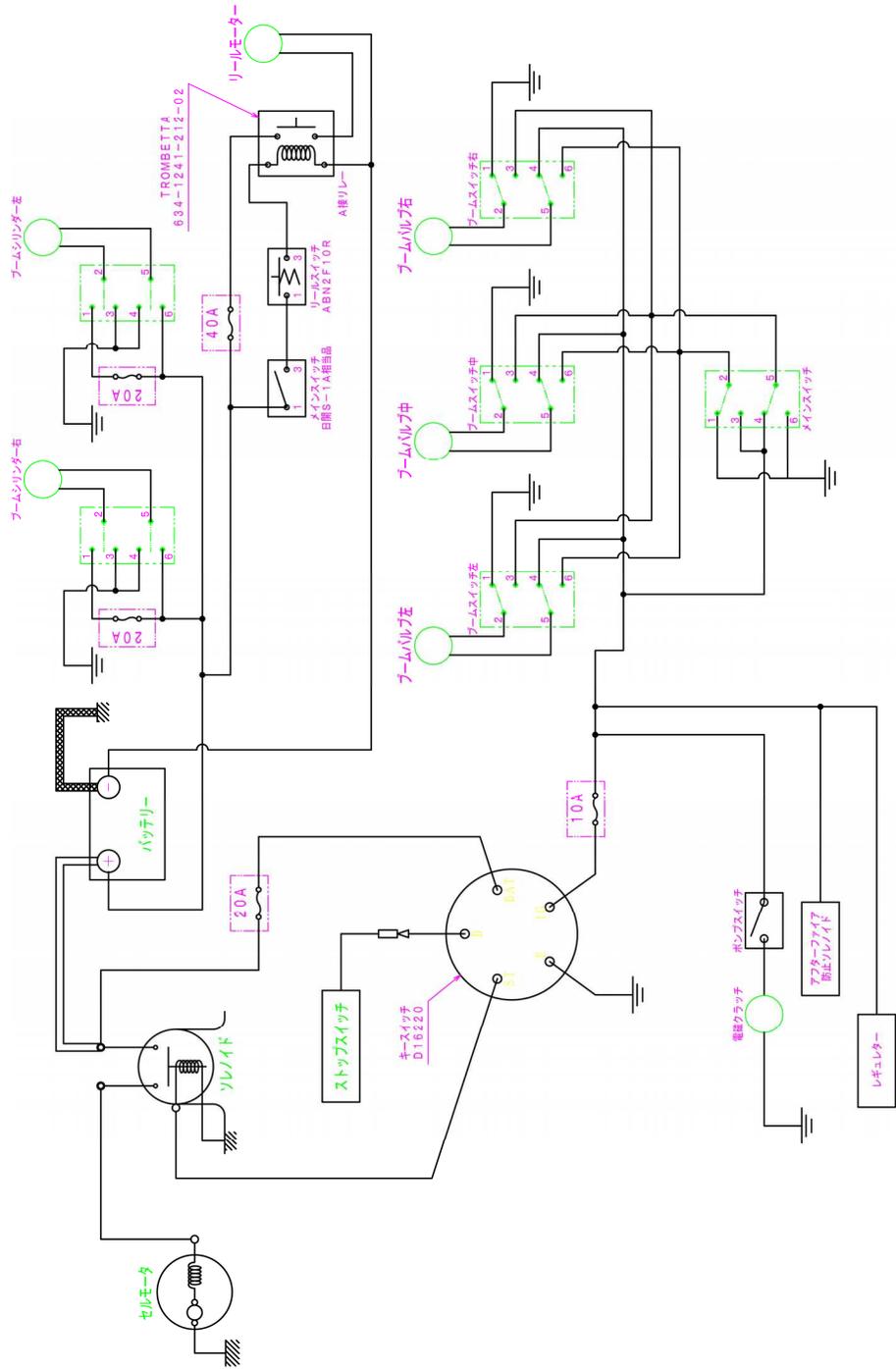
オドメーター/オドメンテナンスアラートの最後の値の設定

FREEZE FRAME MEMORY フレームメモリをフリーズする

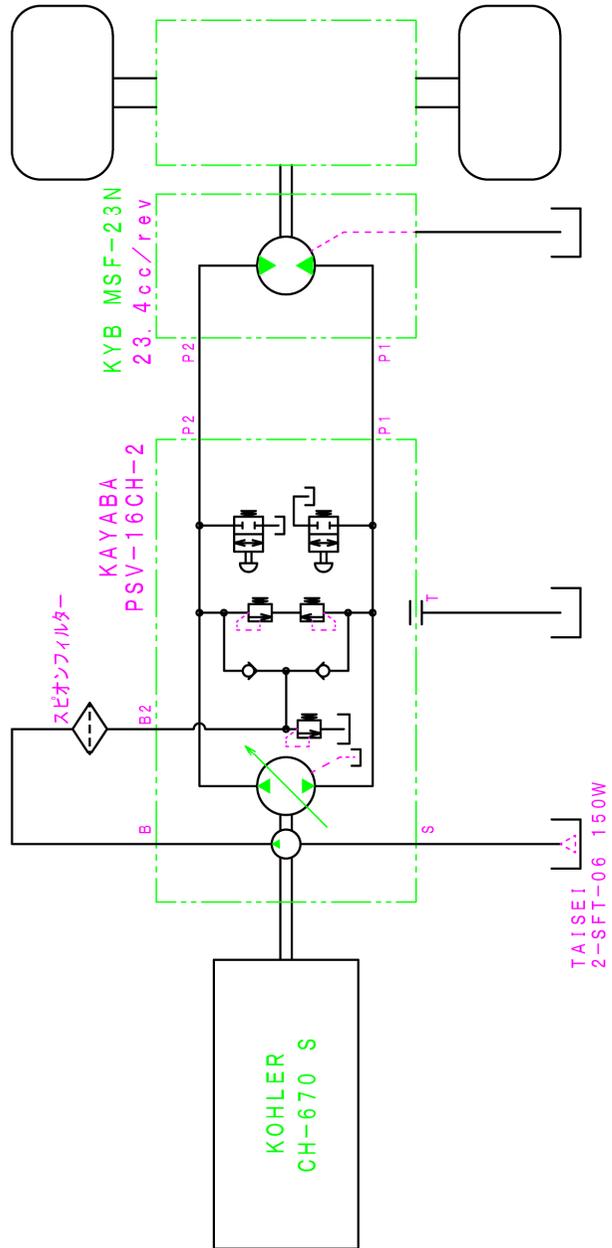
AUTO ON/OFF 自動 オン/オフ

電池 「AG13 or LR44」

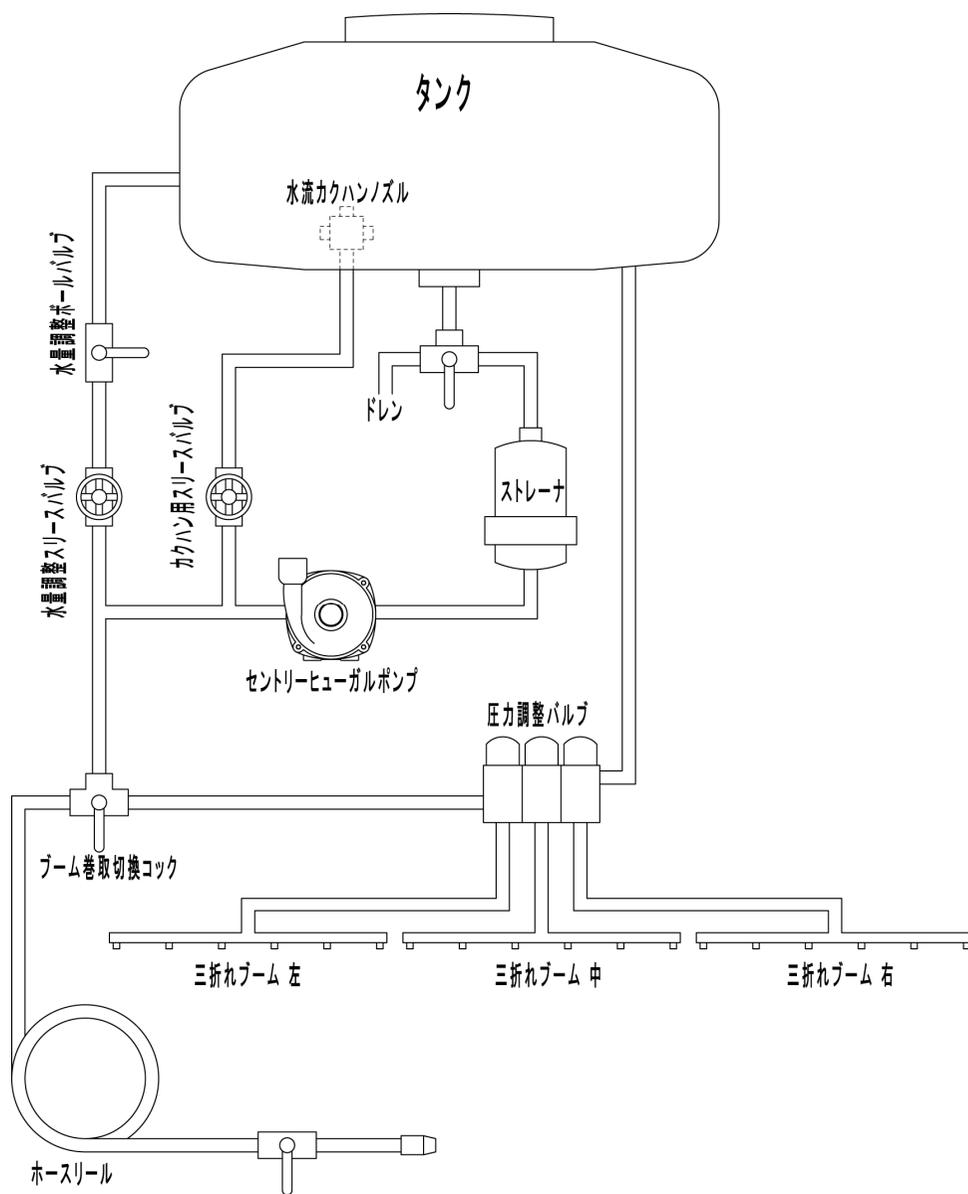
9. 電気回路図



10. 油圧回路図



1 1 . 散布経路図



12. 散布水量表

◆ブーム散布水量表(速度 3~5km/h)

速 度		3km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	25.6	27.9	30.1	32.1	34.1	35.9
	80015	38.3	42.1	45.5	48.6	51.5	54.3
	8002	51.9	56.4	60.9	65.0	68.9	72.7
	8003	75.4	82.9	89.7	96.1	102.1	107.7
	8004	100.9	111.0	120.1	128.7	136.7	144.2
	8005	123.2	135.9	147.6	158.4	168.5	178.0
	8006	145.0	160.6	174.8	188.0	200.3	211.9
	8008	184.3	206.0	225.7	243.8	260.6	276.4
	8010	230.4	257.6	282.1	304.7	325.8	345.6
	8015	299.0	345.3	386.0	422.9	456.7	488.3
	8020	321.7	394.0	454.9	508.6	557.1	

速 度		4km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	19.2	20.9	22.6	24.1	25.6	27.0
	80015	28.7	31.6	34.1	36.4	38.6	40.7
	8002	38.9	42.3	45.7	48.8	51.7	54.5
	8003	56.5	62.2	67.3	72.1	76.6	80.8
	8004	75.7	83.2	90.1	96.5	102.5	108.2
	8005	92.4	102.0	110.7	118.8	126.3	133.5
	8006	108.7	120.4	131.1	141.0	150.2	158.9
	8008	138.2	154.5	169.3	182.8	195.5	207.3
	8010	172.8	193.2	211.6	228.6	244.3	259.2
	8015	224.3	258.9	289.5	317.1	342.6	366.2
	8020	241.2	295.5	341.2	381.4	417.9	

速 度		5km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	15.3	16.7	18.1	19.3	20.5	21.6
	80015	23.0	25.3	27.3	29.1	30.9	32.6
	8002	31.1	33.9	36.6	39.0	41.4	43.6
	8003	45.2	49.7	53.8	57.7	61.2	64.6
	8004	60.6	66.6	72.1	77.2	82.0	86.5
	8005	73.9	81.6	88.5	95.0	101.1	106.8
	8006	87.0	96.4	104.9	112.8	120.2	127.1
	8008	110.6	123.6	135.4	146.3	156.4	165.9
	8010	138.2	154.5	169.3	182.8	195.5	207.3
	8015	179.4	207.2	231.6	253.7	274.0	293.0
	8020	193.0	236.4	272.9	305.2	334.3	

◆ブーム散布水量表(速度 6~8km/h)

速 度		6km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	12.8	13.9	15.0	16.1	17.0	18.0
	80015	19.2	21.1	22.8	24.3	25.8	27.2
	8002	26.0	28.2	30.5	32.5	34.5	36.3
	8003	37.7	41.4	44.9	48.1	51.0	53.9
	8004	50.5	55.5	60.1	64.3	68.3	72.1
	8005	61.6	68.0	73.8	79.2	84.2	89.0
	8006	72.5	80.3	87.4	94.0	100.2	105.9
	8008	92.1	103.0	112.9	121.9	130.3	138.2
	8010	115.2	128.8	141.1	152.4	162.9	172.8
	8015	149.5	172.6	193.0	211.4	228.4	244.1
	8020	160.8	197.0	227.5	254.3	278.6	

速 度		7km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	11.0	11.9	12.9	13.8	14.6	15.4
	80015	16.4	18.1	19.5	20.8	22.1	23.3
	8002	22.2	24.2	26.1	27.9	29.5	31.1
	8003	32.3	35.5	38.5	41.2	43.7	46.2
	8004	43.3	47.6	51.5	55.1	58.6	61.8
	8005	52.8	58.3	63.2	67.9	72.2	76.3
	8006	62.1	68.8	74.9	80.6	85.8	90.8
	8008	79.0	88.3	96.7	104.5	111.7	118.5
	8010	98.7	110.4	120.9	130.6	139.6	148.1
	8015	128.1	148.0	165.4	181.2	195.7	209.3
	8020	137.9	168.8	195.0	218.0	238.8	

速 度		8km/h					
元圧力	サイズ	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
	8001	9.6	10.4	11.3	12.1	12.8	13.5
	80015	14.4	15.8	17.1	18.2	19.3	20.4
	8002	19.5	21.2	22.9	24.4	25.9	27.3
	8003	28.3	31.1	33.6	36.0	38.3	40.4
	8004	37.9	41.6	45.1	48.3	51.3	54.1
	8005	46.2	51.0	55.3	59.4	63.2	66.7
	8006	54.4	60.2	65.6	70.5	75.1	79.5
	8008	69.1	77.3	84.6	91.4	97.7	103.7
	8010	86.4	96.6	105.8	114.3	122.2	129.6
	8015	112.1	129.5	144.8	158.6	171.3	183.1
	8020	120.6	147.7	170.6	190.7	208.9	

◆オプション ワイドフラットファン散布水量表 K-120×1 個

速度 先端圧	3km/h	5km/h	6km/h	7km/h	8km/h
0.4MPa 有効散布幅 5m	217.8	130.7	108.9	93.3	81.7
0.5MPa 有効散布幅 5m	266.7	160.0	133.4	114.3	100.0
0.6MPa 有効散布幅 5m	308.0	184.8	154.0	132.0	115.5
0.7MPa 有効散布幅 5m	323.0	193.8	161.5	138.4	121.1
0.8MPa 有効散布幅 5m	344.4	206.6	172.2	147.6	129.1

◆オプション ブームレスフラットファン散布水量表 XT-080×2

速度 元圧力	3km/h	5km/h	6km/h	7km/h	8km/h
0.2MPa 有効散布幅 8m	111.7	67.0	55.9	47.9	41.9
0.25MPa 有効散布幅 8m	118.9	71.4	59.5	51.0	44.6
0.3MPa 有効散布幅 9m	114.7	68.8	57.3	49.1	43.0
0.35MPa 有効散布幅 9m	128.2	76.9	64.1	54.9	48.1
0.4MPa 有効散布幅 10m	126.4	75.8	63.2	54.2	47.4
0.45MPa 有効散布幅 10m	136.5	81.9	68.3	58.5	51.2
0.5MPa 有効散布幅 11m	132.7	79.6	66.3	56.9	49.8
0.55MPa 有効散布幅 11m	136.0	81.6	68.0	58.3	51.0
0.6MPa 有効散布幅 11m	148.3	89.0	74.2	63.6	55.6

13. 保管

全般

機械をしばらく使わないときは、屋根のある場所に保管する事。雨風にさらすと外観が損なわれるだけでなく、寿命を縮めます。

1. エンジンをかけて燃料を完全に使い尽くす。
2. 燃料タンクから燃料を抜く。タンク内の燃料を抜いたら、配管内の燃料を逆流させて燃料フィルターを洗う事。
3. エンジンがまだ暖まっているうちに、クランクケースからオイルを抜き、新鮮なオイルを入れること(エンジンマニュアル参照)
4. エンジンの外側を清掃する。塗装のはがれている部分は補修するか、防錆オイルを塗ること。オイルはSAE 30MIN-L 2120基準に適合するオイルを使う事。

バッテリー

具体的な指示は、メーカーのマニュアルを参照してください。また本マニュアルの保守の項を参照してください

保守の項に従ってバッテリーを外し清掃する事。バッテリーは立てた位置で保管する事。バッテリーは冷暗所に保管する事。26.7℃以上の温度で保管すると放電が大幅に増加します。放電したバッテリーを-7℃以下で保管すると、電解液が凍結します。

重要

保管中のバッテリーは、60日から90日の間隔で点検し、必要なら再充電する事。